

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	女性交流推進事業	会計	一般会計	事業No.	768	施策順No.	82-005
		事業種別	政策・その他	予算科目	10-5-1-10-1		
政策	8 交流と連携が活力を生むまちづくり			課等名	生涯学習・スポーツ課		
施策	82 三遠南信・中京圏の連携推進			事業期間	開始	S56	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	飯田市・伊勢市婦人会						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		飯田市連合婦人会会員数(人)		660	600	480	480	
	意図	両市婦人会の学習、交流の充実						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	交流回数(回)			2	2	2	1	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】		計画通り2回実施された						

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	両市婦人会の学習、交流 22年度までは同一年度内に、訪問・来訪していたが、23年度からは事業縮小し、隔年で訪問、来訪をする。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 飯田市連合婦人会の伊勢市への訪問・学習交流事業 6月16日(水)～17日(木) 竹田扇之助記念国際糸操り人形館、旧座光寺麻績学校校舎(県指定の県宝)見学 両地区の活動報告と情報交換、昼食交流会	1 交流回数 参加者数 2 交流回数 参加者数	1 1回 74人 2 1回 72人
	2 伊勢市婦人会の飯田市への来訪、学習交流事業 10月21日(木)～22日(金) 伊勢神宮参拝、金剛證寺拝観、両地区の活動報告と情報交換、伊勢音頭交流会		
23年度実施計画	伊勢市婦人会との学習交流事業 ・伊勢市婦人会の飯田市への来訪。文化交流、活動報告、情報交換。	交流回数 参加者数	1回 80人

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他					
	一般財源		15	15	15	
	計(A)		15	15	15	
	正規職員所要時間			50		
	臨時職員等所要時間					
	人件費計(B)			179		
	トータルコスト A+B			194		

4 事業に対する市民や議会の意見

各地区婦人会は地域活動に対して一定の影響をもっている。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	三遠南信・中京圏と ①共通の課題を認識する ②協力し補完しあう	施策の成果指標 またはムトス指標	都市間交流に参加している市民の割合 (三遠南信・中京圏) 三遠南信・中京圏との連携や交流が重要だと思う市民の割合
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	お互いの地域を知る学習や交流を実施した。将来における東海圏との関係構築につながると思われる。		
	後期に向けた課題	23年度からは事業縮小し、隔年で訪問、来訪をする。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	共通の課題を確認して交流を行っている。費用対効果も適切であった。		
	後期に向けた課題	23年度からは事業縮小し、隔年で訪問、来訪をする。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	交流の主体は婦人会であり、費用負担も適切である。		
	後期に向けた課題	現状維持		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	交流の主体は婦人会であり、市の費用負担は適切である。市は事務局として交流事業の支援を行っている。		
	後期に向けた課題	現状維持		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	①婦人会は自立度の高い組織であり、地域活動に対しての影響力も強い。東海圏との交流も、コンスタントに行うことで親睦が深められている。 ②市は事務局として関わっているが、自立度の高い組織であり、必要最小限の支援をするのみにとどまっている。		
	後期に向けた課題	現状維持		
全体を通じて	4年間の振り返り	市からの婦人会への団体補助金については、上郷町合併時から支払われていたが、22年度からは廃止されている。会員の減少もあり、近年弱体化してきているが、市の事業にも深く関わってもらっている団体である。伊勢市との交流をコンスタントに行うことで、東海圏との親睦が深められてきたと思われる。		
	後期に向けた課題	23年度からは隔年での訪問、来訪になり事業縮小はされるも、地域活動に対しての影響力の強い団体であり、伊勢市との交流を続けることは、将来における東海圏との関係構築につながると思われる。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要がありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要がありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input checked="" type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	--	---------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	--